

# 城郭探訪

まちづくりと城の址

## 白山市 鳥越城

### 後世に残す地元の歴史 2度の災害からの復興に向けて

ほくせん  
白山市長(石川県)

たむらとしかず  
田村敏和



#### 豊かな自然が育む歴史と文化

白山市は、平成17(2005)年2月1日、松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村の1市2町5村の合併により誕生しました。石川県の南部に位置し、西は日本海、南は日本三名山の一つである「霊峰白山」を擁する白山国立公園に連なるなど、海から山まで多様な自然環境を有し、県内最大の面積を誇ります。

また、市内を流れる「手取川」は白山を源とする県内最大の1級河川であり、山間部から海岸部に至る約72kmの間に、約2700mもの標高差があります。この急峻な地形が、美しい手取峡谷や広大な手取川扇状地を形成し、多様な自然と景観を生み出してきました。こうした地形と自然は、古くから人々の暮らしや文化の形成に深く関わり、本市の歴史的・文化的基盤となっています。

本市では、この豊かな自然と人々の営みの関係を学び、地域の魅力として発信するため、市全域を対象とした「白山手取川ジオパーク」の取り組みを推進しており、令和5年にはユネスコ世界ジオパークに認定されました。自然と歴史、文化が結びついた地域の価値を次世代へ継承し、地域振興や教育に生かす取り組みを進めています。

#### 鳥越城跡の概要

こうしたジオパークの重要な歴史文化サイトの一つが、白山麓に位置する鳥越城跡です。鳥越城は戦国時代末期に築かれた山城で、続日本100名城にも選定されています。霊峰白山を源とする手取川とその支流・大日川に挟まれた鳥越山の尾根に築かれ、麓との高低差は約130mに及びます。この地形を生かした堅固な構えは、当時の軍事的拠点として重要な役割を担っていました。

城主は本願寺から派遣された鈴木出羽守



現在の鳥越城跡

と伝えられ、天正9(1581)年には一向衆と織田方との激しい攻防が繰り広げられました。翌年、織田方によって鎮圧されましたが、城内には石垣や曲輪などの遺構が現在も良好に残されています。特に枳形門の石垣には、一向衆時代の石垣を覆うよう



全国山城サミット白山大会



二曲城跡入り口

に織田方が積み直した痕跡が確認されており、戦国時代の緊張した情勢を今に伝える貴重な歴史遺産となっています。また、大日川を挟んだ対岸には二曲城跡があり、両城は加賀の一向一揆の最後の拠点として重要な歴史的意義を有しています。これら価値が認められ、昭和60(1985)年には「史跡鳥越城跡附二曲城跡」として国の史跡に指定されました。

## 震災からの復興と これからの鳥越城跡

鳥越城跡は、令和4年の豪雨災害や令和6年の能登半島地震により石垣などに被害を受けましたが、安全対策を講じながら公開を継続し、令和7年に

は国による史跡指定40年を記念した「全国山城サミット白山大会」を開催するなど、その価値と魅力を広く発信してまいりました。本市では、こうした貴重な歴史遺産を適切に保存するとともに、その魅力を生かした活用を進め、後世へ確実に継承していくことが重要であると考えております。

豊かな自然に育まれた歴史と文化は、本市の大きな財産です。今後も地域の皆さまと共に、自然と



鳥越城遠景

歴史を守り生かしながら、魅力あふれるまちづくりを推進してまいります。

歴史探訪コラム

## 城と都市の でんせつ

江口知秀  
建設産業図書館 学芸員

### 白山のフクロウ

加賀一ノ宮の白山比咩神社は、現在の白山市三宮町にあり、全国三千余社の白山神社の総本宮で「しらやまさん」と親しまれている。そのように霊威ある神が祀られた地であったためか、往昔は怪異が頻繁に起こっていたという。そのうちの一つを『加越能三州奇談』から紹介したい。

それは例年のごとく行われる社殿修繕の折のことだった。加賀の城下から多くの番匠が集まり、昼は作事に励み、夜は里に宿を取っていたが、大工道具は全て現場に置いていたので、小間使いの男を2人とどめ、それらを守らせていた。

ある夜のこと。小間使いの1人が、拝殿の辺りに出て、こうこうと輝く月を見上げていると、大木の樹頭にフクロウが止まり、しきりに鳴いていることに気がつい

た。この男は生来軽率の性質なので、フクロウに応じるように一声鳴きまねをしてしまった。

するとフクロウはこずえを離れ、神社の棟まで下りてきて鳴き始めた。男が面白がつてさらに鳴きまねをすると、今度は次第に近づいてくる。こうして競い合うように鳴き声を上げていくと、そこからフクロウが集まってきて、ついには数千羽が男を囲んだ。男は非常に驚いたが、なすすべがない。

その時、もう1人が事態に気がつき、急いで宮司に知らせると、時としてこのようなことがあり、鳴き負ければ死ぬことになるといふ。

そこで人数を集めて、フクロウたちに負けぬよう声の限り鳴き声を上げていくと、次第に夜が明けて妖しい鳥たちは一羽また一羽と飛び去っていったという。